

大学改革の核としての電子図書館

—電子ジャーナル・コンソーシアムの次にくるもの—

土屋俊
(千葉大学)

平成13年度国立大学図書館協議会シンポジウム
(<http://CogSci.L.Chiba-U.ac.jp/~tutiya/Talks/>)

目次

- まず、今年の復習
 - 国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォースの貢献
- しばし、自画自賛
 - 「これまでにない成果」
- しかして、現実論
 - 2003年はそうはいかない
- 将来への展望
 - いっそう強固なコンソーシアムの必要性
 - しかし、どうやって？

2002年度のためにやったこと

- ともかくコンソーシアムのような交渉をした
 - Elsevier, Springer, Wiley, Academic Press, Blackwell
- ともかくコンソーシアムのようなものができつつある
 - ScienceDirect “Subconsortium” (30館以上が700タイトル以上クロスアクセス)、IDEALコンソーシアムが40館規模に、Springer, Wiley, Blackwellのコンソーシアム成立
- アーカイブ設置の交渉
- 直接契約方式の試み
- 文部科学省への注意喚起
 - デジタル研究情報基盤ワーキング・グループの設置
 - 「電子ジャーナル導入経費」の要求

どのくらい得をしたか

- 大学ごとには？

- 千葉大学の場合、2001年度の5社支払い額の90%を各部局に約束してもらって、ほぼその額で前年比2倍のタイトル数を確保
- これは、例外？

- 国立大学全部としては？

- ScienceDirect subconsortiumはお得
- SDの論文当りコスト半減の大学も出る可能性
- エルゼビアへの総支払額は減少
- 他社については、追加徴収のため不明
- 目に見えない「得」？

目に見えない「得」

- 学内への影響

- 予算方式改善への動き・流れ

- 「間接経費」(オーバーヘッド)を図書館へ(2月から運動)

- 重複の調整の不可避性の認識

- 図書館における認識の深化

- 交渉は(日本なんとかでなく)本社としなければならない

- 代理店に頼っていると価格はどうにもならない

- 情報は共有したほうが得である(サブコンソーシアム)

- 図書館から働きかけないと研究者は変わらない

残された諸問題(多分すべてではない)

- 学内集金制度は確立できたか？
 - 大学による
- タスクフォースは維持できるか？
 - 人的問題？
- 雑誌価格は安定するか？
 - 多分、不可能
- 電子ジャーナルは本当に普及したか？
 - 多分まだであろう
- 電子化は雑誌でとどまるか？
 - 教科書、百科事典、辞書類は？
- そもそも、「古典的」な学術情報流通体制は維持できるのか、維持するべきなのか？
 - 真の情報化とは何か
 - 研究者は何を考えているのか

学内集金制度は確立できたか？

- 大学ごとに事情は異なる
 - 総合大学・単科大学
 - STM系(そのなかでもバイオ系か化学・材料系かCSかなどなど)・人文社会系
 - 研究中心・教育中心
- しかし、教員・研究者がタイトル決定権を握る限り、効率的運用は不可能(多分)
 - 各キャンパスの研究者はどの程度に「ジャーナル」を読んでいるか？
- 「共通経費化」のロジックは？

タスクフォースは維持できるか？

→ コンソーシアムはただではない

- 交渉には生身の人間が必要
 - 交渉担当要員(6人) + サイト対応要員(100人)
 - 出張旅費
 - 昨年来、月平均2回以上の会合
- 時間
 - 会合時間
 - 調査時間
 - 情報共有サイトの維持

雑誌価格は安定するか？

- 量が増えるならば到底不可能
 - 以前として、値上げ幅は数パーセント
- 寡占的高額誌化？（トータルが変わらなければOKだが、単独では購入できないかもしれない）
- 電子化のコスト上のメリットは？
 - 出版社の主張
 - プロダクション経費の60%ないし70%は人件費
 - したがって、技術革新による価格低下は30%以下
 - 購読者の主張
 - 頒布コストの低減は大きいはず
- 代理店はどうなるのか？

来年(以降)の課題

- 学内集金制度の確立
 - 大学改革を味方につけて
- 安定的交渉主体の確保
 - 組織としての対応、私立大学との関係
- 雑誌価格を下降させる動きを創出
 - ICOLC、SPARC、ISCA
- キャンパスにおける電子ジャーナル普及への努力
 - 利用者教育の一層の推進、オンラインレファレンス
- 「本」の電子化への対応の準備
 - 図書館からの働きかけ
- 生涯学習社会への対応(遠隔学習・ユニバーサライゼーションも)
- 学術情報流通体制の抜本的見直し
 - 電子的流通形態の通常化(標準化、共有化、カタログ・メタデータ)
 - 研究者ができること、できないことの確定
 - 電子図書館化の不可避性と電子図書館概念の改変

平成14年度予算の問題点

- 「電子ジャーナル導入経費」
 - 目的は？
 - 配分は？
 - 次年度は？(ちゃんとして電子図書館構築の義務)
- 「学生用図書購入費」
 - 30%減予定
- したがって、学内での作業が重大
 - 14年度設立コンソーシアムは比較的オープン(15年度からの参加も可能)
 - 中央経費化のメリットは歴然

タスクフォースの将来

- 現在の稼働メンバーはほとんど任期切れまたは異動(多分)、あるいは「息切れ」
- 交渉すべき相手はたくさん残っている
 - Nature, NEJM, ACS, Kluwer, RSC, etc
 - ISI, EBSCO, UMI(ProQuest), Gale, etc
- この状況に対応するには、国立大学図書館の主体的努力が必要
- 私立大学は、交渉面・予算面で一步遅れているのでその対応も必要
- 交渉すれば成果が上がることは歴然

価格抑制への努力

- ICOLC
 - 新しいIPreferred Practice etc(1998年版を改定)
 - “Electronic Plus”モデルの提唱
- SPARC
 - SPARC Europeの開始(本年秋季)
 - SPARC Japanの呼びかけ(本年夏、1月に講演会)
 - (学内呼びかけのきっかけとしても利用可能)
- ISCA(International Scholarly Communication Alliance)
 - 国立大学図書館協議会も創設メンバー(多分)

SPARCのモデル

- 高額誌への対抗タイトル刊行を支援
 - Tetrahderon Letters vs Organic Letters
- 学会ベースの電子ジャーナル刊行を支援
 - Big One
- 図書館による優先的購読
- 研究者と協力した調査・広報活動
 - 現状調査
 - パンフレット類の刊行
 - 政府機関などへの働きかけ

キャンパス内の着実な努力

- キャンパスネットワークとの協力
 - ファイアウォール、DHCPなどの導入への対応
- 利用者教育の推進
 - テンプレート・モデルの共有
 - マニュアル、説明文書の共有(リンクでよい)
 - ビデオ教材などの共有
- レファレンスの共有
 - 電子ジャーナル環境はキャンパスを越えて共通
 - 共同したオンライン対応が可能(過去のデータベース化構想などが十分有用)

辞書・事典・教科書

- CMUでの調査

- 82%の学生がコンピュータを所有し、
- ほとんどすべての学生がインターネットを利用
- その結果、93%の学生が「図書館へ行くよりも情報をオンラインで見つけることのほうが当然である」と考え、
- 83%が「開館時間が限られているので、図書館で自由に資料を入手できない」と述べ、
- 75%が「オンラインならばいつでも情報を入手できるので、時間が節約できてうれしい」

- オンラインがあれば図書館は要らない世代の登場

辞書・事典・教科書

- 学習環境の全面的電子化
 - 遠隔授業
 - 教材提供・使用教材オンデマンド利用
 - テスト・評価・成績提出の電子化
- いくつかの試み(本年秋段階では成否不明)
 - Questia
 - NetLibrary
- しかし、いずれは電子化
 - 予算問題
 - 表現力増強の必要性
 - (日本では)従来の理工学教科書出版が不景気

大学像の変化(真の大衆化)

- 生涯学習社会への対応
 - パートタイム学生(科目等履修生、その発展形態等
 - 在職履修制度の整備の進行
 - 物理的キャンパスの意味の消滅？
- 長期積上げ学習から集中的問題解決指向学習へ
 - リカレント・リフレッシュ学習者の増大
 - 教材が常に直ちに入手可能であることの必要性
 - 背景が不十分な体制で一気に専門的学習
 - 電子化教材の不可避性
- Walk in ユーザの増大

学術情報流通体制の図書館からの見直し

- 21世紀の大学電子図書館像を提示する必要
 - 平成8年の建議の改訂
 - 大学改革との整合性
 - 国会図書館・公共図書館・博物館等の電子化との整合性
- 国立大学の等質性に基づく連携方法の提案
 - 「法人化」の方向性との整合性
 - 学内予算使用法の等質性
 - 人事体系の類似性
 - ともかく総合目録をもっていることの重要性

どの仕事も個別の館では無理

→ 広い意味のコンソーシアムの構想を

- 電子的情報共同購入利用コンソーシアム
 - 電子ジャーナル
 - レファレンスデータベース
 - 教科書・マルチメディア教材
- 資料電子化コンソーシアム
 - デジタイゼーションセンター等
- オンラインレファレンスコンソーシアム
- バーチャル・ユニバーシティの壁なき図書館？